

血漿と ^{99m}Tc -HM-PAOをインキュベーションしたところ、primary complexは短時間に急速に減少し、secondary complexが増加した。

血漿中の ^{99m}Tc 活性は蛋白質分画、HM-PAO、 $^{99m}\text{TcO}_4^-$ の分画に認められた。

8. 軟部腫瘍のシンチグラフィ

斎藤 了一 奥山 厚 多田 周
高岩 成光 汲田伸一郎 高橋 政之
市川 太郎 五十嵐義晃 山本 鼎
山岸 嘉彦 恵畑 欣一 (日本医大・放)

組織診断の確定した軟部腫瘍20例(悪性15例, 良性5例)の, Tc 骨シンチグラム, Ga 腫瘍シンチグラム, 単純XPを比較検討した。

悪性例ではXP上骨破壊の見られたものは4例で, 全例同部の骨シンチ集積が認められ, 一例は骨原発性腫瘍と同程度の高集積を示した。軟部腫瘍部への集積は6例で認められ, hypervascularなものが多かった。ガリウム集積は9例で陽性, 6例で陰性を示し, 脂肪肉腫の2例はいずれも集積陰性であった。一方良性例では, 腱鞘巨細胞腫の1例以外はいずれも骨, ガリウムシンチともに集積陰性であった。

今回悪性例で腫瘍部のhypervascularな所見を得ることはきわめて重要であると思われ, 通常の骨シンチグラフィに動態imagingを行うことは意義深いと考えた。

9. 骨外性集積を示した骨シンチグラムの二症例

鈴木 賢 長瀬 勝也 (順天堂大・放)

^{99m}Tc リン酸化合物による骨外集積像は種々の病態, 疾患で観察される。今回, われわれは若年性関節リウマチおよび腎癌において ^{99m}Tc の骨外集積像を認めたので報告した。症例1: 3歳, 男子, 若年性関節リウマチ, 発熱, 咳, にて発症, 関節痛, 関節腫脹, 右下腿疼痛あり, ^{99m}Tc -MDP骨シンチグラムで右下腿内側に骨外異常集積像を認め腓腹筋の筋炎への異常集積と考えられた。X線的に右下腿部に石灰化は認められなかった。症例2: 59歳, 男性, 左腎細胞癌, ^{99m}Tc -MDP骨シンチグラムにおいて左腎腫瘍部に淡い集積を認めた。X線的に

も, 組織学的にも石灰化は認められなかった。二症例の ^{99m}Tc -MDPの異常集積機序は不明であった。

10. 骨シンチ所見改善の著しい骨転移症例

小野 慈 猪狩 秀則 中村 豊

(神奈川県がんセ・核)

骨転移の骨シンチにて所見の改善をみた症例を検討した。

昭和61年1月から62年4月の間に行われた悪性腫瘍1,313例, 1,670回の骨シンチを調査対象とした。

骨転移所見の改善をみた症例は20例あり, 乳癌12例, 前立腺癌4例, 肺癌2例, 悪性リンパ腫2例であった。前後の骨シンチが比較できる症例について骨転移の悪化, 不変, 改善の三項目に分けてみると, 乳癌では悪化45, 不変18, 改善10であり改善率は13.7%であった。肺癌では悪化34, 不変5, 改善をみたのはわずか2例であった。前立腺癌の改善率は13.6%と乳癌とほぼ同程度であった。

改善を示した症例の治療法は通常行われている抗腫瘍剤, ホルモン剤, 放射線療法などであり, 特別な治療法の組み合わせは発見できなかった。

11. Silent thyroiditis とバセドウ病における血中甲状腺ホルモンと尿中ヨード排泄量の関係について

杉本 高士 百溪 尚子 伊藤 國彦

(伊藤病院)

Silent thyroiditis (SLT) では, 血中甲状腺ホルモン濃度が増加する原因が甲状腺からの漏出であると推測されているが, その根拠となる成績は乏しい。われわれは, 24例のSLT患者および133例の未治療バセドウ病(GD)患者の尿中ヨード1日排泄量(UI)と血中 T_3 , FT_4 濃度との関係を検討したところ, SLT患者ではUIとこれらのホルモンレベルとの間に強い相関関係を認めた(UI vs. T_3 $p < 0.02$; UI vs. FT_4 $p < 0.01$)。一方GD患者では, 有意な相関関係はみられなかった。有機ヨードの尿中への排泄量はごく限られ, 尿中ヨードのほとんどは無機であることを考えあわせると, SLTにおける以上の現象は, 甲状腺から T_3 , T_4 が無機ヨードとともに漏出していることを示唆している。なおGDに比べSLTでは, UI/ T_3 , UI/ FT_4 が明らかな高値で, GDとのoverlapは前者が24%, 後者が9%であり, これらは